

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)

セッション討議内容の記録

セッション名 : ITS 技術を用いた交通行動把握・評価・調査	
日付 : 6月 7日 (土)曜日, セッション時間 : 10:30~12:00	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 畠中 秀人 (国土技術政策総合研究所)	
討 議 内 容	セッション全体 : ITS 技術を用いた行動データ収集 (239、240)、新たな施策の提案 (241、242)、評価等 (243、244) に関する発表が行われた。
	(239) 松本修一 (高知工科大学) : ・以前は寺が調査に協力しないケースがあったが、動向は変わっているのか。 →世界遺産登録を目指す動きもあり、看板の配置方法など検討が必要となって調査ニーズも高まってきている。全体的に協力的であった。 ・リピーターも多いと思われるが、リピーターでも迷うことがあるのか。 →集計はしていないが、リピーターでも結構迷うことがあるようだ。
	(240) 貞廣雅史 (渋谷プローブ通信) : ・GPS の位置誤差を考えると 1 秒単位での計測速度分布の精度が低いのは当然といえるが、生データでなくスムージング等の処理を行うことは検討されていないのか。 →あくまで生データでどこまでのことが分かるのかに主眼を置いており、データの加工は考えていない。
	(241) 石坂哲宏 (日本大学) : ・シミュレーション結果の「OD150%」等の意味は? →実観測の捌け交通量に対する設定需要の割合を示している。 ・右左折率の設定はどうか。 →実観測の比率で固定している。 ・救急車が多様なルートを走行することを考慮すべきではないか。 →このケースでは地形上ほとんどが幹線道路を通行しており、経路は単純化可能。
	(242) 片岡源宗 (高知工科大学) : ・提案手法でなぜ 2 レーンが有効利用できるようになるのか、詳しく説明してほしい。 →駐停車可能な場所を限定し、車線変更が必要ないようなレーン構成にすることによって容量増が見込める。 ・バス優先レーンのイメージか。 →バスレーンは 1 つのアプリケーション。他にも、タクシー、荷捌き等への利用を想定。 ・容量等の定量的効果試算はしているか。 →容量は 1.5 倍程度になる。また簡単なシミュレーション試算では、旅行時間も 5~6 割の改善。
	(243) 松島哲郎 ((独)土木研究所 寒地土木研究所) : 時間の都合上、質疑なし
	(244) 佐々木定男 (株ピアノテック) : 時間の都合上、質疑なし